

趣意書（寄付のお願い）

赤門を皆の力で開こう！

赤門（旧加賀藩上屋敷の御守殿門）は、文政 10 年（1827）に加賀藩主の前田家 13 代斉泰が第 11 代将軍徳川家斉の 21 女・溶姫を迎える際に造られたものです。国の重要文化財として指定されている赤門は、貴重な歴史文化資産であると同時に、東京大学の象徴的存在でもあります。

2023 年秋、赤門につながる構造物として、側面に石組みが施され、底には白漆喰が丁寧に突き固められた溝の遺構が発掘されました。加賀藩邸と中山道（現・本郷通り）の境界となっていたこの溝は、文化財としての歴史的価値が高く、現在その保存・活用が検討されています。さらに、赤門脇の UTCC（東京大学コミュニケーションセンター）が入るレンガ造りの建物は明治 43 年（1910）に築かれたものであり、本郷キャンパスに現存する大学建造物としては最古の一つです。

今日、耐震補強が必要と判明したために、赤門は閉ざされ、長らく通行できない状態となっています。東京大学 150 周年記念事業企画調整委員会と施設部は、赤門を補強・修復し、その周辺環境の価値を高めて将来に継承していくべく、赤門周辺を歴史的エリアとして整備する大きな記念事業を計画しています。目標は、ふたたび赤門を通れるようにし、その先に小さな赤門前広場、そして UTCC 前に人々が集える場所をつくることです。「世界の誰もが来たくなるキャンパス」の入口に、東京大学の次なる 150 年を開く門と、多様な人々が赤門周辺の歴史環境を感じながら集うスペースを生み出したいのです。

東京大学が 150 周年を迎える 2027 年、赤門は 200 周年を迎えます。この素晴らしい契機に、晴れて赤門が開けるように、そしてその周りで歴史と未来が交差するスペースを創出できるように、ぜひ皆様のお力添えをお願いする次第です。

理事・副学長
津田 敦